

[English follows Japanese]



THE MAUREEN AND
MIKE MANSFIELD FOUNDATION

Connecting People and Ideas to Advance Mutual Interests in U.S.-Asia Relations

モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団ニュースレター

2023年11月5日

目次

[第27期マンスフィールドフェロー来日 & 石川県日本語研修](#)

[第27期マンスフィールドフェロー歓迎レセプション](#)

[第26期マンスフィールドフェロー最終報告会](#)

[他財団プログラムの活動報告](#)

[発行物のお知らせ](#)

[第27期マンスフィールドフェロー紹介メッセージ\(2\)](#)

第27期マンスフィールドフェロー来日 & 石川県日本語研修

[マンスフィールド・フェローシップ・プログラム](#)について

第27期マンスフィールドフェローが2023年7月3日に来日しました。都内での1週間の到着オリエンテーションの後、7月8日～8月24日までの7週間にわたり、石川県金沢市にある公益財団法人石川県国際交流協会(IFIE)にて日本語の集中講座を受けました。金沢市に滞在中、フェローはホームステイを経験しホストファミリーとの交流を深め、文化体験講座や施設訪問を通して日本理解の向上に努めました。帰京後は、人事院が行う研修前のオリエンテーションを受け、9月からそれぞれの専門分野に従った受入機関の省庁などで研修を始めており、研修は来年6月まで行われます。



馳浩石川県知事(中央)を囲んで(於石川県庁)

[人事院 マンスフィールド研修\(人事院 HP\)](#)

第 27 期マンスフィールドフェロー歓迎レセプション

8月31日に、外務省、人事院、マンスフィールド財団の共催による第27期マンスフィールドフェロー歓迎レセプションが飯倉公館にて行われました。レセプションでは、林芳正外務大臣(当時)より冒頭挨拶を賜り、その後、人事院の川本裕子総裁、馳浩石川県知事、駐日米国大使館のレイモンド・F・グリーン首席公使からも激励の言葉をいただきました。有馬裕外務省北米局長による乾杯の後、弊財団理事長のフランク・ジャヌージが本プログラムを支える日米政府及び日本語学習を長年支援してきた石川県の関係者らに感謝の辞を述べ、第27期フェローの10名が自己紹介及び今後の目標などについて日本語でスピーチを行いました。会場にはフェローの今後の受入機関となる省庁職員や、過去に研修先を提供して下さった国会議員をはじめ、日本在住の同窓フェロー、石川県関係者や語学講師、ホストファミリー、その他本プログラムを直接的または間接的にご支援いただいていた関係者200名ほどが集まり、フェローとの交流の時間を持ちました。

[第27期マンスフィールド研修員歓迎レセプションへの林外務大臣出席\(外務省 HP\)](#)



なお、本プログラムは、林前外相が約 30 年前にウィリアム・ロス米国上院議員事務所でインターンとして働いていた時に提案したことから誕生し、1994 年に米国議会によって設立されました。現在、26 期までの 188 名の同窓生が日本での経験を活かし、米国内外で活躍しております。

「[マンスフィールドフェロースHIPプログラムの思い出](#)」 林芳正
(「[ユニークな経験・視点 - マンスフィールドフェローと彼らが内側から見た日米関係](#)」より)

第 26 期マンスフィールドフェロー最終報告会

2023 年 6 月 23 日に、第 26 期マンスフィールドフェローの最終報告会が人事院主催のもと行われました。各フェローは研修全体の総括や成果等を日本語で報告し、その後、幸清聡総括審議官より、研修終了証書が授与されました。





他財団プログラムの活動報告

日米次世代パブリック・インテレクチュアル・ネットワーク・プログラム

【6月 ジャパン・スタディ・ツアー】独立行政法人国際交流基金の支援のもと実施する本プログラムの[第6期スカラ](#)が6月4日～11日に行われたジャパンスタディ・ツアーに参加しました。本プログラムは、米国と日本から選出された日米に関わる多様な専門性や視点を持つ研究者や実務家から成り、二国間の政策立案過程に建設的に参与することが期待されています。ツアー前半では、林芳正外務大臣(当時)表敬や小池百合子東京都知事表敬に加えて、外務省、経済産業省、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、在日米国大使館、また首相官邸などで日米関連の政策ブリーフィングを受けるとともに、複数の国会議員との懇親会や経団連との意見交換の場を持ちました。また日本の社会問題への理解を深める目的で、特定非営利活動法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長の湯浅誠氏によるレクチャーや知的障害を持つアーティストと協働する株式会社ヘラルボニーの活動について話を聞く機会を持ちました。ツアー後半は、今年は山口県と福岡県(北九州市)を訪れ、岩国市では米海兵隊岩国航空基地訪問や岩国市長表敬を通して米軍基地と共存するための自治体の取り組み、宇部市では林芳正議員宇部事務所において地方と中央(国会)政治との関係、宇部市役所にてばいじん汚染を克服するための緑化への取り組み、北九州市では認定NPO法人抱樸(ほうぼく)でホームレス支援などの話を伺い、日本へのさらなる理解を深め、ネットワーキング構築に努めました。



山口県岩国市錦帯橋にて

【8月 モンタナ・リトリート】第6期スカラーは8月18日～21日にモンタナ州ホワイトフィッシュに再び集い、ジャパン・スタディーツアーの振り返りを行うとともに、プログラム成果物となる政策提言の発表の場(コメンタリー、ポッドキャストなど)につなげるためのメディア研修を受け、その一環としてNHKワールドシニアディレクターの道傳愛子氏をゲストスピーカーにお招きし、お話を伺う機会を持ちました。

[マンズフィールド-PhRMA 研究者プログラム](#)

マンズフィールド財団は、医薬に携わる日本の若手研究者8人からなるスカラーと3人のオブザーバー(※)の11名を9月10日から9月24日の2週間にかけてワシントンDC、フィラデルフィア、ボストンに派遣し、トランスレーショナル研究等を行う関連医療機関や行政機関、シンクタンクとの会合や視察を行う米国研修ツアーを実施しました。本プログラムは、[米国研究製薬工業協会\(PhRMA\)](#)からの支援を受けて2014年から実施しており、日本のトランスレーショナル研究の促進や共通の目的をもつ関係者間のネットワーク促進を目的としています。

※オブザーバーの所属機関: 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)、独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)、経済産業省

[第9期スカラー発表ニュースリリース\(日本語\)](#)



PhRMA 本部(ワシントン DC)で

他財団プログラム UPDATES(2023 年 1 月～9 月)

◆[日米友好基金トーマス・S・フォーリー議員交流プログラム](#)

2023 年 2 月 20 日から 25 日にかけて、米国連邦議会議員 5 名が日本と韓国を訪問し、2019 年以来となる対面での会合が実現しました。[詳細はこちら](#)

◆[ルース・アジア・スカラー・ネットワーク・プログラム](#)

ヘンリー・ルース財団からの支援を受けて運営する本プログラムにおいて、マンズフィールド財団は、2023 年 6 月 18 日から 30 日にかけて日本・香港・インドネシアを訪問する第 2 期ルース・スカラーのアジア・スタディ・トリップを実施しました。うち 6 月 18 日～21 日の間、一行は東京に滞在し、日米・アジアにおけるサプライチェーンやクリーン・エネルギーなどの地経学的問題や安全保障などにかかわる問題など、経産省、経団連、国際交流基金、在日米国大使館などからブリーフィングを受け、また東京大学や[アジア・パシフィック・イニシアティブ\(API\)](#)との意見交換の機会を持ちました。

◆[モーリン・マンズフィールド日米韓女子学生エンパワメント・プログラム](#)

在日米国大使館の支援を受け実施する「モーリン・マンズフィールド女性エンパワメント・シリーズ」の女子学生(18～24 歳)向けプログラムとして、今年春から夏にかけて 3 か国の女子学生 15 名が様々な政策分野について 5 回のオンライン・ワークショップで議論を交わし、[8 月 6 日～11 日にワシントン D.C.で総括イベント](#)を対面で行いました。

◆[マンズフィールド・次世代日米核政策専門家プログラム](#)

本プログラムは、在日米国大使館の支援のもと、今年 3 月から 1 月にかけて実施しており、国際関係、安全保障研究、政治などを専攻する日米の大学院生が 3 月から 8 月までインターアクティブなウェビナーにおいて議論を深め、9 月 10 日～17 日にワシントン D.C.で行われた研修にて政府・大学・シンクタンクの核専門家から直接話を聞く機会を持ちました。参加者はこれら

の経験をもとに、グループに分かれて短い政策提言作成に取り組み、来年1月14日(日)、国際文化会館(東京)にて発表予定。

◆CFM(コーポレート・フレンズ・オブ・マンスフィールド)政策会合

8月30日にマンスフィールド財団のCFM政策会合が国際文化会館で行われ、弊財団のフランク・ジャヌージ理事長が6月と7月に訪問した韓国、香港、ベトナム、インドネシア各国の上級政策立案者と交わした対話を基に、アジアからみた米中対立についての展望を述べ、法人会員の参加者との意見交換を行いました。



発行物のお知らせ

◆日米サイバーセキュリティ協力についてのレポート刊行

2021年から2023年にかけて、マンスフィールド財団は、日米関係を特に焦点を当てたサイバーセキュリティ分野における深刻な人材不足問題に取り組むために、研究者や実務者からなるワーキンググループを立ち上げました。オンラインまた対面による議論を重ねた結果、日米のサイバーセキュリティ協力における現状と両国が直面する脅威について詳述し、サイバー人材を強化する10の勧告からなる政策提言を発表しました。[報告書\(英語\)はこちら](#)。

◆海洋状況把握(MDA)と宇宙技術に関する多国間勧告

2021年、マンスフィールド財団は、係争中の南シナ海においてより効果的な海洋状況把握(MDA)を確立する最善の方法を検討するため、専門家や学者からなるワーキンググループを立ち上げました。このグループは常設の[日米宇宙フォーラム](#)から発展し、南シナ海で経済的および戦略的に重要な利益を持つオーストラリア、日本、フィリピン、米国、ベトナムの5か国から専門家から構成されています。マンスフィールド財団は2023年10月、この協力を強化するための多くの実行可能な政策提言を発表するとともに、政策立案者がグローバル・コモンズ(人類共有の財産)の相互利益のために5か国間で協力するための枠組みを提示しました。[レポート全文\(英語\)はこちら](#)。

◆日米次世代パブリック・インテlectual・ネットワーク・プログラム:第5期生による論説、記事

本プログラムの活動の一環として、第5期参加者は意見記事やその他の執筆に取り組み、それぞれの専門知識を反映させた政策関連の短い論説や記事を発表しました。これらの[論説や記事はこちら](#)からご覧ください。

◆第 27 期マンスフィールドフェローの記事が The Diplomat に寄稿

第 27 期マンスフィールドフェローのアンドリュー・オーチャード米国海軍中佐が The Diplomat に寄稿し、記事が掲載されました。

[Weathering The Storm: China's Latest Maritime Challenge Against Japan](#)

第 27 期マンスフィールドフェロー紹介(2)

2023 年 7 月に[マンスフィールド・フェローシップ・プログラム](#)で来日した第 27 期生の 10 人のうち、今回はマイケル・リー氏、ジェイミー・ライオンハート大尉、エンケムジカ・オファディレカラサズ氏、アンドリュー・オーチャード中佐、ブライアン・ヴェセル氏の 5 人を紹介します。

他 5 人のフェローの自己紹介メッセージについては[こちら](#)をご覧ください。

マイケル・リー

米国国土安全保障省 連邦緊急事態管理庁 (FEMA) 戦略・イノベーション部 主任



私は日本の文化、並びに様々な問題に対する解決策のアプローチに強い関心を持っています。日本文化には、食文化や芸術、歴史をはじめ、多くの魅力がありますが、日本の生活やキャリアに対する哲学にも興味があります。私はこれまで国内外の様々な場所で生活や訪問する機会に恵まれましたが、中でも日本は特別です。

私はイリノイ州シカゴで生まれ、ジョージア州アトランタで育ちました。私は 1990 年代後半から 2000 年代前半にかけて、イノベーションやベンチャービジネスで活気に溢れるシリコンバレーで IT の専門家としてキャリアをスタートさせました。その後、私は自然災害をはじめとするあらゆる緊急事態に備え、リスクを軽減し、災害予防や応急対策を講じる危機管理の分野にキャリアを移行しました。最初、私はアメリカ赤十字において緊急事態管理に関わる仕事に就きましたが、その後、現勤務先である米国国土安全保障省下の連邦緊急事態管理庁 (FEMA) に転職をしました。今は、バージン諸島やプエルトリコ、アリアナ諸島を含めた米国全域で発生した災害の支援をしています。

FEMA では、戦略・イノベーション部の主任として戦略的計画と通信関連、CX(カスタマーエクスペリエンス)開発、リサーチや新規事業向けプロトタイプ開発支援に携わっています。私のチームは被災者の災害復興体験の改善だけでなく、より公平性を担保することにも焦点を置いています。災害関連以外では、国内のホームレスや南西部国境における移民の支援を軸とした国庫補助金プログラムを統括しています。この二つのプログラムを合わせると、60 億ドル以上の補助金を NGO や地域社会に提供しています。

日本は防災や災害応急対策が有名で、公共、民間セクター双方でその対策力は進化し続けています。私はマンスフィールド財団を通して、日本に住み、仕事ができることが楽しみです、日本がどのようにこの分野を牽引しているか学びたいと思っています。

まず、私の家族は、現在ワシントン D.C. 郊外にあるバージニア州に住んでいます。妻と私には、小学校に通学する娘一人と息子二人がいます。

ジェイミー・ライオンハート

米国空軍大尉 第 319 偵察航空団 ノースパーク防衛研究所 イノベーションディレクター



初めまして。アメリカ空軍のライオンハート・ジェーミーと申します。

私はカリフォルニア州で生まれましたが、父が空軍関係者であったため、転勤族でした。父が NATO に勤務していたことから、幼少期はベルギーに住んでいました。私の隣人はイギリス、ドイツ、フランスをはじめヨーロッパ中から来ていました。幼少期の海外での経験が今の私の海外の言語や文化への愛情を育てているのです。

私は 2014 年に遠隔操縦航空機 (RPA) のパイロットとして空軍に入隊しました。それ以来、RQ-4 グローバルホークで 1,000 時間以上飛行し、様々な国を頻りに訪れました。

パイロットとしての経験は楽しかったですが、米国とその同盟国のパートナーシップ強化につながるより相互交流を持つ任務に憧れていました。

2018 年に私は日本の航空自衛隊の研修ニーズを探るため、米国空軍の対外有償軍事援助チームのパイロットの専門家として選出されました。日本の航空自衛官のチームとの連携は大変素晴らしく、マンスフィールド・フェロウシップ・プログラムへ応募もその際に勧められました。私は日本にまた戻って、重要なパートナーシップ強化に向けて貢献する機会をマンスフィールド財団と米国空軍から頂けたことを大変光栄に思っています。

私の日本にいる間の焦点は、女性と平和、安全保障 (WPS: Women, Peace and Security) です。大学院で国際関係学を学んでいる間、WPS に関する国連で採択された取り組みに加え、平和実現に向けたプロセスに女性がいかに重要な役割を果たすかを裏付ける研究について学びました。

昨年夏、私は米国空軍におけるジェンダー・アドバイザーに認定されました。日本でビジネスと人権に関する 行動計画 (NAP) がどのように実行されているかを学び、日本で学んだことを米国と国防総省に持ち帰ることを楽しみにしています。

どうぞよろしくお願いいたします！

エンケムジカ・オフアディレカラサーズ

米国教育省 計画・評価・政策開発部 助成金政策室 政策・プログラムアドバイザー



はじめまして！私は米国教育省 計画・評価・政策開発部で政策・プログラムアドバイザーをしています。助成プログラムを通して、優先順位の高い政策を最適な方法で推進するための戦略的指導と助言を提供しています。直近の実績としては、公平性に関する政策を主とするバイデン大統領令 13985 に対する教育省の回答の取りまとめ、および連邦政府の各省内における公平性に関する部門間を超えた共同プロジェクトを共同リードしました。また、成人教育とリテラシー、キャリアおよび技術教育、コミュニティカレッジに関連するプログラムの運用や管理を行っている成人・キャリア・技術教育局 (OCTAE) や、特殊教育・リハビリテーションサービス局 (OSERS) の特に職業リハビリテーションを中心としたプログラムと連携することも私の仕事の1つです。連邦政府における教育政策のための公平な財源および助成金の確保における計画の作成と履行も私の日常業務に含まれます。

約 10 年間にわたる米国教育省でのキャリアでは、初等中等教育局 (OESE) で米国州立教育局と連携し、「全児童・生徒学業達成法 (Every Student Succeeds Act (ESSA))」への移行に従事し、また連邦学生援助 (FSA) ではデータリーダーとして有給雇用と 150% ポリシーに関するプロジェクトに携わりました。米国教育省に入省以前は、ワシントン D.C の公立学校および特別認可学校で数学と科学の教師に加えて教育事務をしており、特にケアが行き届かない住民に対して教育サービスやサポートが行き届くよう従事していました。ピッツバーグ大学の学士号、トリニティ大学の修士号を経て、ハーワード大学では教育リーダーシップ・政策の博士号を取得しました。

マンフィールドフェローとして日本では、都道府県と国家の両レベルにおいて、日本の教育政策を推し進めている要素に対する理解や、教育政策の履行に関する調査に従事することを楽しみにしています。また、日本の同僚と共に日本の教育の目的を達成するための基本的政策を理解し、最近のトレンドやその最大要因、将来への課題を理解するデータの分析に従事することも楽しみです。日米の教育システムを改善していくための継続的対話ができるよう、日本のパートナーたちとの長期的な関係性構築にも尽力するつもりです。

米国の行政における最大重点エリアの1つは公平性であり、私自身としても資金調達と一般教育における透明性の高い調査とベストプラクティスを探求できることを期待しています。その1つの例として、市民権の問題は日米両国において難しい問題です。移民に対する教育のアクセシビリティに関して日本ではどのような取り組みを行っているかについて学びたいと思っています。また、日本では貧しい地域はあるものの、貧しい学校はないという話を耳にします。どのようにそのような公平性が実現しているかを学ぶことで私の現職での仕事に大いに参考になると考えています。マンフィールドフェローとして公平性に関する学びや解決策、重要な教育領域における国際的なパートナーを得られる機会があるだけでなく、そういった機会を日本という素晴らしい国でいただけることに非常にワクワクしており、第3期教育振興基本計画についても積極的に学んでいます。また、私は日本食が大好きでワシントン D.C でも多くの日本食レストランに足を運び、自分で団子を作ったりもしました！日本ではできる限りたくさんのレストランに行ってみたいと思います！今回が私にとって初めての日本ですが、現在勉強している美しい日本語を使って一年を過ごすことが楽しみです。私が取り組んでいる公共サービスの影響をより大きく、2倍にもできる機会を頂けることに心より感謝していますし、皆さまにお会いできることを楽しみにしています。この素敵な機会には、私の夫と2人の息子たちと参加します。頑張ります！

アンドリュー・オーチャード
米国海軍中佐



はじめまして。アンドリュー・オーチャードと申します。私は米国海軍の情報将校で、現在、ニューオーリンズ合同予備役情報センターで指揮官を務めています。

私は「サード・カルチャー・キッド(TCK)」として主に東京で教育を受け、10代の大半を日本で生活しながら日本語や日本の歴史を学びました。それが、日本に関する知識を深めようと常に努めてきた私の動機や関心のベースとなっています。現在も、大学レベルで日本語学習を継続しています。

私は、日本で育った経験を4回に及ぶ日本での海軍での職務に活かしてきました。

日本の海上自衛隊(JMSDF)関係者と協力し、文化の壁を超えて連携することは米国海軍第7艦隊および第7艦隊戦闘部隊における直近の任務での重要な使命でした。この任務が、タリスマン・セイバー2019の訓練中、史上初となる二国間海上情報交換や、2020年の海上における日米両国間協力における戦略的理解の共有につながりました。

マンسفールド・フェローシップ期間中、日本のカウンターパートとの協働を通して、海洋状況把握に関する連携強化と日本の海洋政策全体への理解をより深めたいと思っております。日本人関係者と共に仕事をすることは、日本人の観点に寄り添い、重要な絆を築くことにつながると思っています。

フェローシップ終了後は、米国第7艦隊の任務の関係で日本に引き続き残る予定です。日本のカウンターパートとの密接な連携と協力的な海洋状況把握はこの任務に欠かすことができません。私の海軍での情報将校としての経験に加え、日本の優先順位や能力、見解への理解を深めることは、インド太平洋全体における二国間戦力の強化に大いに役立つと言えます。

ブライアン・ヴェセル

米国商務省 海洋大気庁(NOAA) グローバルモニタリングラボ 運営部長



現職では、海洋大気庁(NOAA)グローバルモニタリングラボ(GML)の運営部長をしています。主な業務としては、海洋大気庁が所有する4つの大気ベースライン天文台(ABO)の管理全般です。ABOはGMLの研究活動を支える中枢です。こうした長期的に気候を研究する施設はバロー(アラスカ州)・マウナロア(ハワイ州)・トゥーラ(米領サモア)・南極大陸にあります。GMLは地球規模の気候変動を引き起こす温室効果ガスに関する様々な測定を行う拠点として世界的に知られており、ABOは世界中の大学、政府機関、その他国際組織の100以上にわたる研究プロジェクトをサポートしています。

幸いなことに私はGMLにおける気候研究に20年以上携わっており、4つすべてのABOとカナダ・スイス・南アフリカ・ロシア・アルゼンチン・ニュージーランド・オーストラリアにある国際研究施設での現地調査を含む様々な業務に従事してきました。私にとって初めての米国外での経験は、南極大陸でNOAAの研究をサポートした2002-2003年越冬クルーとしての活動でした。それ以降、25回以上にわたり南極圏や北極圏に派遣され、独自の技術力と極圏における運用への強い関心を培ってきました。南極での研究活動のハイライトは、南極条約に基づき米国政府主導で行われ、複数機関によって構成された2020年米国南極調査チームに米国代表として参加したことです。私たちは、2020年2月に南極大陸にある多くの国際的な研究拠点を訪問し、条約のコンプライアンス遵守について検証しました。

マンフィールドフェローとして、日本の地上・航空機・衛星を拠点とした気候システムの計測に携わる研究チームと交流することや、日本政府内で気候研究の運用を支えている方々と交流できることを楽しみにしています。また、日米間で協力の重要性が高まっている科学者同士のコネクション構築を促進し、気候科学のポートフォリオが日本政府内でどのように管理されているかについて学びたいと考えています。日本における極圏研究およびその運用と管理、また昨今のような課題の多い環境に対して使用されている技術的解決策についても興味があります。

日本に住んで働くことを楽しみにしていると共に、このような機会をいただけることに心から感謝しています。

■このニュースレターは、関連団体、実施事業関係者のほか、以下の方々にお送りしています。

・当財団スタッフとの面談、取材、名刺交換、メール通信等により個人情報をご提供いただいた方

・当財団主催/後援のセミナー、講演会等にご参加いただいた方

■皆様からいただきました個人情報は当財団の主催または後援によるセミナー等のご案内の送付に使わせていただきます。

■ニュースレターの新規登録・配信停止または登録内容の変更は、お手数ですが以下のメールまでお知らせください。

tokyoinfo@mansfieldfdn.org

[日本語トップに戻る↑](#)

Maureen and Mike Mansfield Foundation Monthly Newsletter

November 5, 2023

Contents

[27th Class of Mansfield Fellows Arrival in Japan/Japanese Language Study in Japan](#)

[Welcome Reception for 27th Class of Mansfield Fellows](#)

[Final Reporting Session by 26th Class of Mansfield Fellows](#)

[Other Mansfield Foundation Program News](#)

[Publications](#)

[Introduction of Mansfield Fellows from the 27th Class \(2\)](#)

27th Class of Mansfield Fellows Arrival in Japan /Japanese Language Study in Ishikawa

[About the Mansfield Fellowship Program](#)

The 27th Class of Mansfield Fellows arrived in Japan on July 3, 2023. After a week-long arrival orientation in Tokyo, Fellows participated in intensive Japanese language studies at the Ishikawa Foundation for International Exchange (IFIE) in Kanazawa, Ishikawa, from July 8 to August 24. During their stay in Kanazawa, they participated in a homestay where they cultivated personal exchanges with their host families and devoted themselves to increasing their

understanding of Japan through cultural experience courses and facility visits. Once they returned to Tokyo, the National Personnel Authority (NPA) held an orientation for them and the Fellows started their placement at Japanese ministries and agencies based on their areas of expertise, which will continue until June 2024.



With Ishikawa Governor Hase at Ishikawa Prefectural Office

[National Personnel Authority on Mansfield Fellowship](#) (NPA website)

Welcome Reception for 27th Class of Mansfield Fellows

On August 31, the Ministry of Foreign Affairs (MOFA), the National Personnel Authority (NPA), and the Maureen and Mike Mansfield Foundation held a welcome reception for the 27th class of Mansfield Fellows at the Ikura Guest House in Tokyo. At the reception, then-Foreign Minister Yoshimasa Hayashi gave opening remarks, followed by words of encouragement from Ms. Yuko Kawamoto, President of the NPA, Mr. Hiroshi Hase, Governor of Ishikawa Prefecture, and Mr. Raymond F. Greene, Deputy Chief of Mission of the U.S. Embassy in Japan. After the toast given by Mr. Yutaka Arima, Director-General of the North American Affairs Bureau, President and CEO of the Mansfield Foundation, Mr. Frank Januzzi expressed appreciation to those who have supported the program such as the U.S. and Japanese governments and Ishikawa officials and host families. Fellows then delivered a self-introduction and spoke about their future goals in Japanese. The reception was attended by about 200 guests, including ministry and agency officials who will host Fellows in the coming year, Diet members who provided placement opportunities in the past, officials from Ishikawa Prefecture, Japanese language teachers, host families, and others who have directly or indirectly supported the program.



This program was first proposed by former Foreign Minister Yoshimasa Hayashi when he was an intern in the office of U.S. Senator William Roth which led to legislation that established the program in 1993. Now there are 188 alumni who have played an active role in the United States and abroad through utilizing their experiences in Japan.

[Reflection on the Mike and Mansfield Fellowship Program](#) by Yoshimasa Hayashi
("Unique Experiences, Unique Perspectives – Mansfield Fellows and Their Insights on U.S.-Japan Relations")

[Ministry of Foreign Affairs website](#)

Final Reporting Session by 26th Class of Mansfield Fellows

On June 23, the Final Reporting Session of the 26th class of Mansfield Fellows was organized by the National Personnel Authority (NPA). Each Fellow reported on overall placement feedback and outcomes in Japanese and then received the certificate of completing the program from Mr. Kiyotoshi Yuki, Director-General for Secretariat's Policy Matters.





Other Mansfield Foundation Program News

[U.S.-Japan Network for the Future Program](#)

[Participants of Cohort 6, Japan Study Tour]

Cohort 6 of the U.S.-Japan Network for the Future program, which is funded by the Japan Foundation, participated in the Japan study tour from June 4 to 11. The program consists of U.S.-Japan specialists from the United States and Japan who hold diverse expertise and perspectives, and are expected to participate constructively in the bilateral policymaking process. The schedule of the first half of the tour included courtesy calls on then-Foreign Minister Yoshimasa Hayashi and Tokyo Governor Yuriko Koike, briefings on U.S.-Japan related policies at the Ministry of Foreign Affairs, Ministry of Economy, Trade and Industry, the Cabinet Office, Japan Science Technology Agency, and the U.S. Embassy in Japan. They also had in-depth discussions with multiple Diet members and Keidanren. Moreover, with the purpose of deepening their understanding of Japanese social problems, they received a lecture from Mr. Makoto Yuasa, Chief Director at the Japan Kodomo-Shokudo Support Center "MUSUBIE," and had the opportunity to exchange opinions with Heralbony Co., Ltd. which collaborates with artists who have intellectual disabilities. In the latter half of the tour, they visited Yamaguchi and Fukuoka prefectures. In Iwakuni City, they learned about local government efforts to coexist with the U.S. military base through a visit of U.S. Marine Corps Air Station Iwakuni and had a courtesy call to the mayor of Iwakuni. In Ube City, they had an opportunity to hear about the relationship between local and national governments at the Ube Office of Hon. Yoshimasa Hayashi and were briefed on efforts in green initiatives aimed at overcoming the issue of air pollution contamination at the Ube City Hall. In Kitakyushu City, they engaged in a discussion with an NPO called "Houboku" about supporting homeless populations in Japan. These dialogues helped to enrich their understanding of Japan and establish valuable networking connections.



At the Kintaikyo Bridge, Iwakuni city, Yamaguchi

[Participants of Cohort 6, Montana Retreat]

Cohort 6 gathered once again in Whitefish, Montana, from August 18 to 21 to reflect on the Japan study tour and discuss how the various components of the program have influenced their research and contributed to or changed their thinking about their deliverables of the program which include an op-ed or commentary piece and a podcast. Mr. Christopher Johnstone, Senior Adviser and Japan Chair at the Center for Strategic & International Studies (CSIS), and Ms. Aiko Doden, Senior Director of NHK World, were invited as guest speakers to provide additional insight on U.S.-Japan policy-making in the White House and interacting with the media, respectively. Furthermore, the guest speakers offered valuable additional insight to the participants' planned deliverables.

[Profile of Cohort6 Scholars](#)

Mansfield-PhRMA Research Scholars Program

The Mansfield Foundation conducted Cohort 9 of the program's U.S. Study Tour from September 10 to 24. Participants consisted of eight scholars, who are young Japanese researchers from the pharmaceutical and development fields. Along with three observers* of the program, the Cohort met with senior experts in major pharmaceutical research programs, managers of pharmaceutical research programs and translational research in U.S. government agencies, and experts from universities and the policy community in Washington, D.C., Philadelphia, and Boston. Funded by PhRMA (Pharmaceutical Research and Manufacturers of America), the program was first implemented in 2014 to promote translational research in Japan and build a network of stakeholders who share common objectives in the field.

*Affiliations of the observers: Japan Agency for Medical Research and Development (AMED) / Pharmaceuticals and

Medical Devices Agency (PMDA) / Ministry of Economy, Trade and Industry (METI)

[Announcement of Cohort 9 \(news release\)](#)



At the Headquarters of PhRMA, Washington, D.C.

Other Program UPDATES January to September, 2023

◆ [Japan-U.S. Friendship Commission Thomas S. Foley Legislative Exchange](#)

From February 20 to 25, five members of the U.S. Congress visited Japan and South Korea, the first in-person meeting since 2019.

◆ [Mansfield-Luce Asia Scholars Network](#)

With generous support from the Henry Luce Foundation, the Mansfield Foundation organized the second class of Luce Scholar's and conducted the Asia study trip from June 18 to 30, visiting Japan, Hong Kong, and Indonesia. From June 18 to 21, the group stayed in Tokyo to receive briefings from METI, Keidanren, the Japan Foundation, and the U.S. Embassy in Japan. The cohort also had roundtables with the University of Tokyo and [Asia Pacific Initiative \(API\)](#) with topics ranging from national security to geoeconomics issues such as the supply chain of the U.S., Japan and Asia, and clean energy.

◆ [Trilateral Youth Empowerment Program](#)

Fifteen female students (ages 18-24) from Japan, the United States, and South Korea participated in the Trilateral Youth Empowerment Program within the Maureen Mansfield Women's Empowerment Series. The program, supported by the

U.S. Embassy in Japan, included 5 virtual workshops covering a variety of policy issues from this spring to summer, as well as [a capstone meeting in Washington, D.C.](#) from August 6 to 11 where the participants were able to meet in person.

◆ [Next Generation of U.S.-Japan Nuclear Policy Experts Program](#)

In March 2023, the Mansfield Foundation launched this program for graduate students studying international relations, security studies, or politics in the United States or Japan, with generous support from the U.S. Embassy in Japan. The participants took part in a series of interactive webinars from March to August, then [had the opportunity to directly hear from nuclear specialists from the U.S. government, universities, and think tanks during their stay in Washington, D.C. from September 10 to 17.](#) The participants will work in groups to submit short policy recommendations based on those experiences and will present them on Sunday, January 14, 2024, at the International House of Japan in Tokyo.

◆ [CFM \(Corporate Friends of Mansfield\) Policy Event](#)

On August 30, the Mansfield Foundation hosted the CFM Policy Event at I-House. Mr. Frank Jannuzi, President and CEO of the Foundation, gave a speech about Asian perspectives on U.S.-China rivalry based on his extensive talks in July with senior policymakers in South Korea, Hong Kong, Vietnam, and Indonesia, and had fruitful dialogue exchanges with the corporate supporters.



Publications

◆ [New Report on U.S.-Japan Cooperation in Cybersecurity](#)

From 2021-2023, the Mansfield Foundation convened a working group of practitioners and scholars to address growing concerns surrounding the severe lack of human capital in the field of cybersecurity, with a particular focus on the U.S.-Japan relationship.

Following extensive consultations online and in person, the group detailed the current landscape of U.S.-Japan cybersecurity cooperation and the threats facing our nations, and produced a policy brief outlining 10 recommendations for strengthening the cyber workforce. [Read the report here.](#)

◆Multilateral Recommendations for Maritime Domain Awareness and Space Technology

In 2021, the Mansfield Foundation convened a working group of practitioners and scholars to address how best to establish more effective maritime domain awareness in the contested South China Sea. The group grew out of the standing [U.S.-Japan Space Forum](#), and gathered experts from five countries with significant economic and strategic interests in the South China Sea: Australia, Japan, the Philippines, the United States, and Vietnam.

In October 2023, the Mansfield Foundation published a policy brief that outlines several workable proposals to increase this cooperation, while also laying out a framework for policymakers to work across the five nations for mutual benefit in the global commons. [Read the full publication here.](#)

◆U.S.-Japan Network for the Future: Cohort 5 Op-Eds and Publications

As part of their participation in the U.S.-Japan Network for the Future, members of Cohort 5 worked on opinion pieces and other writings to refine their expertise into short, policy-relevant articles. Please find Cohort 5 participants' Op-eds and publications [here](#).

◆Mansfield Fellow from the 27th Class Contributes to The Diplomat

Mansfield Fellow, Commander Andrew Orchard, U.S. Navy, had an article published in The Diplomat: [Weathering The Storm: China's Latest Maritime Challenge Against Japan](#)

Introduction of Mansfield Fellows from the 27th Class (2)

The Mansfield Foundation Tokyo Office introduces five Mansfield Fellows out of ten, Mr. Michael Lee, Captain Jamie Leonheart, Ms. Nkemjika Ofodile-Carruthers, Commander Andrew Orchard, and Mr. Brian Vasel, from the 27th class of the [Mansfield Fellowship Program](#), who arrived in Japan this past summer.

You can find the self-introductory messages of the other five fellows [here](#).

Michael Lee

Chief, Office of Strategy and Innovation, Federal Emergency Management Agency (FEMA), Department of Homeland Security



I have a deep interest in the culture of Japan and its approach to solving both common and complex issues. While there are many aspects to Japanese culture that many find fascinating, such as food, art, and history, I find its philosophies towards life and career to be fascinating as well. I've had the great fortune of being able to live and travel to many places in the United States and around the world, and Japan has always been a treasured part of those experiences.

I was born in Chicago, Illinois, but grew up most of my life in Atlanta, Georgia. I started my professional career in information technology and worked in Silicon Valley during the late 1990s and early 2000s, when innovation and venture capital were at an amazing and exciting pace. Since that time, I transitioned my career into Emergency Management, where the focus is on creating a coordinated effort to prepare, mitigate, respond, and recover from disasters or any other potential crisis. I first started my career in Emergency Management working for the American Red Cross, but later transitioned to the Federal Emergency Management Agency (FEMA), under the Department of Homeland Security, where I work today. I have supported disasters across the United States, including the U.S. Virgin Islands, Puerto Rico, and the Commonwealth of the Mariana Islands.

At FEMA, I manage the Office of Strategy and Innovation, which is responsible for Strategic Planning and Communications, Customer Experience (CX) development, and Research and Prototype Incubation. The efforts of my team focus on improving the disaster recovery experience for those who are affected by disasters but also bring greater equity (or equitable access) to those that we serve. Outside of my disaster-focused work, I also manage a substantial national grant program that focuses on assisting the U.S. domestic homelessness population and immigrants seeking asylum at the southern border. The combination of these two programs has provided over \$6 billion in funding to NGOs and local communities.

Japan is well known for its disaster preparedness and disaster response capabilities, and its ability to innovate in both the public and private sectors. I look forward to living and working in Japan, and through the Mansfield Foundation, learn more about how Japan leads in these areas.

Our family currently lives in Virginia, just outside of Washington, D.C. My wife and I have one daughter and two sons who all attend elementary school.

Captain Jamie Leonheart

Director of Innovation, North Spark Defense Lab, 319th Reconnaissance Wing, U.S. Air Force



初めまして。アメリカ空軍のライオンハート・ジェーミーと申します。

Although I was born in California, my father was also in the Air Force, so we moved often. When I was a child, we lived in Belgium while my father worked for NATO. My neighbors were from all over Europe, including Great Britain, Germany, and France. This early experience abroad cultivated a love of languages and cultures which I carry with me today.

I joined the Air Force in 2014 as a remotely piloted aircraft (RPA) pilot. Since then, I have accumulated over 1,000 flight hours in the RQ-4 Global Hawk and have had the opportunity to travel often. Although I enjoyed my experiences as a pilot, I longed for a more interactive role in advancing the partnerships between the United States and its allies.

In 2018, I was selected as a pilot subject matter expert to join the Air Force Foreign Military Sales team that was traveling to Japan for a training needs assessment for the Japan Air Self-Defense Force. The JASDF team was incredible to work

with, and while there I was recommended to apply for the Mansfield Fellowship program. I am immensely honored to be granted the opportunity by the Mansfield Foundation and the Air Force to return to Japan and contribute to this incredibly important partnership.

My focus during my time in Japan will be on Women, Peace, and Security (WPS). During my graduate studies in International Relations, I learned of the United Nation's resolution on WPS and the research behind it showing how important women are to the peace process. Last summer, I became a certified Gender Advisor for the U.S. Air Force, and I look forward to studying how Japan has implemented its National Action Plan and bring lessons learned back to the United States and the Department of Defense.

どうぞよろしく願いたします！

Nkemjika Ofodile-Carruthers

Policy and Program Advisor, Grants Policy Office, Office of Planning, Evaluation and Policy Development U.S. Department of Education



Hajimemashite!! My name is Dr. Nkemjika Ofodile-Carruthers and I am currently a Policy and Program Advisor in the Grants Policy Office, within the Office of Planning, Evaluation and Policy Development, at the U.S. Department of Education. In this role, I provide strategic leadership and advice on how best to advance policy priorities through the Department's grant programs. My most recent accomplishments have included facilitating the writing and adoption of the Secretary of Education's Supplemental Priorities, adjudicating the Biden Administration Executive Order responses for the Department, directing the Agency response specifically for Executive Order 13985, which focused on Agency Equity Plans, and co-leading an extensive

interagency working group of colleagues leading the Equity Plan work in their respective agencies across the Federal government.

My portfolio also consists of partnering with the Office of Career, Technical and Adult Education (OCTAE), focusing on programs that are related to adult education and literacy, career and technical education, and community colleges, and the Office of Special Education and Rehabilitative Services (OSERS), specifically within their programs that engage in vocational rehabilitation services. My daily undertakings incorporate creating and implementing clear plans to help improve education policy-making at the Federal level, namely the equitable approach to funding and grantmaking.

Within my almost ten years at the Department, I have worked in the Office of Elementary and Secondary Education where I partnered with State Education Agencies through the transition to the Every Student Succeeds Act (ESSA), and have been a data lead at Federal Student Aid (FSA), working on projects pertaining to Gainful Employment and 150 Percent policies. Before joining the Federal government, I was a Math and Science educator and a school administrator in both District of Columbia Public and Charter Schools, ensuring educational excellence for all students and securing support for all students, especially those from underserved populations. I have a bachelor's degree from the University

of Pittsburgh, a master's degree from Trinity University, and a Doctorate from Howard University in Education Leadership and Policy.

While in Japan, I am excited to engage in parallel activity to my work at the prefectural and national level to gain an understanding of what drives education policy in Japan, examine the implementation of National education policy priorities, synthesize with colleagues in Japan to understand the Basic Plan for Education objectives and analyze data to capture the trends, greatest impacts, and overall challenges of the education policy priorities to better influence future practice. I also seek to foster long-term relationships with partners in Japan to continue conversations and build towards continuous improvement of both of our countries' education systems.

One of the largest areas of focus for this current U.S. administration has been equity and I also hope to explore transferable research and best practices in funding and general education. One such example is that the road to citizenship in both Japan and the United States is not without challenges. I would like to learn more about what Japan is doing to make learning accessible for immigrant students whose families are seeking paths to citizenship. Japan also has a mantra that while there may be poor areas, there are no poor schools and I believe that learning how an equity approach is implemented here will enrich my work at the Department. Partnering in this work will ultimately be of great benefit to both our countries.

I am beyond excited at the opportunity that being a Mansfield Fellow presents. Not only will I have the opportunity to learn more about equity issues and solutions and internationally partner in the important work of education funding, but I will also be able to do it in the amazing country of Japan and have been eagerly learning about the Third Basic Plan of Education. Fun fact, I am obsessed with Japanese food, have tried many Japanese restaurants in the Washington, DC area and have even made dango! I am excited to try as many restaurants as I can while I am here!! This will be my first time in Japan, and I am excited to navigate through the next year in its beautiful language that I am currently learning. I am thankful for the opportunity to double the impact of my public service and look forward to meeting you soon. I will be joined on this incredible opportunity by my wonderful husband and my two amazing little boys. Gambarimasu!!

Commander Andrew Orchard

U.S. Navy



Greetings! I am a Naval Intelligence Officer currently serving as the Officer-in-Charge, Joint Reserve Intelligence Center New Orleans.

As a "third culture kid" primarily educated in Tokyo, I experienced Japanese daily life and studied the language and history throughout my formative years. This is the basis of my interest and motivation for constantly working to improve my knowledge of Japan. Even now, I continue Japanese language studies at the university level.

I leveraged these foundational experiences throughout my naval service, especially during each of my four Navy assignments to Japan.

Working with Japan Maritime Self-Defense Force (JMSDF) partners to enhance bilateral cooperation and bridge cross-cultural barriers were critical parts of my recent Expeditionary Force Seven Fleet and Battle Force Seventh Fleet assignments. This work allowed us to execute the first-ever bilateral at-sea maritime intelligence exchange during exercise TALISMAN SABRE 2019 and improve shared tactical understanding during 2020 bilateral operations at sea.

Through collaboration with Japanese counterparts during the Mansfield Fellowship program, I seek to improve maritime domain awareness cooperation and gain a deeper understanding of Japan's overall Ocean Policy. Working closely alongside Japanese colleagues will form crucial bonds and develop informed empathy for the Japanese perspective.

After completing the Mansfield Fellowship program, I expect to remain in Japan for assignments with the U.S. Seventh Fleet. Close coordination with Japanese counterparts and cooperative maritime domain awareness will be essential to this assignment. Combining my naval intelligence background with an increased understanding of Japanese priorities, capabilities, and perspective will greatly assist me in supporting the bilateral force across the Indo-Pacific.

Brian Vasel

Director of Operations, Global Monitoring Laboratory, National Oceanic & Atmospheric Administration, U.S. Department of Commerce)



In my current role, I serve as the Director of Operations for the NOAA Global Monitoring Laboratory (GML) where I am primarily responsible for the overall management of NOAA's four Atmospheric Baseline Observatory (ABO) sites. The ABOs serve as the backbone of GML's global research effort. These long-term climate research facilities are remotely located in Utqiagvik (Barrow), Alaska; Mauna Loa, Hawaii; Tula, American Samoa; and at the South Pole, Antarctica. GML is globally recognized as the world standard for measuring many of the greenhouse gasses that are causing global climate change, and the ABO sites support over a hundred research projects from worldwide universities, government agencies, and other

international organizations.

I have been fortunate to be involved in GML's climate science for over two decades and have served in a variety of roles, including performing field work at all four ABOs and international research stations in Canada, Switzerland, South Africa, Russia, Argentina, New Zealand, and Australia. My first experience working outside of the U.S. was as a member of the 2002-2003 winter-over crew at South Pole Station, Antarctica supporting NOAA's science. Since then, I have deployed over 25 times in the Antarctic and the Arctic regions, have cultivated a unique skill set, and developed a genuine fondness for field operations in the polar regions. A highlight of my Antarctic work was the honor of being selected to represent the United States as a member of the multi-agency 2020 U.S. Antarctic Inspection Team, convened

under the authority of the International Antarctic Treaty and State Department leadership. We visited a multitude of international research stations in Antarctica to verify Treaty compliance in February 2020.

As a Mansfield Fellow, I look forward to working with Japanese research teams involved in ground, aircraft, and satellite-based measurements of the climate system. I am also keenly interested in working with colleagues who support the operational component of the climate research teams across the Japanese government. I hope to facilitate connections between scientists leading to increased scientific cooperation between our two nations and to learn how the climate science portfolio is managed throughout the Japanese government. I am also interested in learning more about Japanese polar research, operations and management in these regions, and the technological solutions used to facilitate science in these challenging environments.

I am excited to live and work in Japan and truly honored by the opportunity.

-
- We send this newsletter to organizations/persons related to the Mansfield Foundation's programs, and:
 - Those who provide us with personal information through meetings, business-card exchanges, interviews, and e-mail correspondences with the Mansfield Foundation's staff
 - Those who attended past events hosted or sponsored by the Mansfield Foundation
 - We would like to use the personal information provided in the manners above when we send invitations of events hosted or sponsored by the Mansfield Foundation.
 - Please contact the email address below to subscribe/unsubscribe or to change your personal information.

tokyoinfo@mansfieldfdn.org

[Back to the Top↑](#)

[モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団 / 日本語ホームページ](#)

[Maureen and Mike Mansfield Foundation / English website](#)

